

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年7月11日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自 2019年3月1日 至 2019年5月31日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 牧野 俊介
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期連結 累計期間	第46期 第1四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自2018年3月1日 至2018年5月31日	自2019年3月1日 至2019年5月31日	自2018年3月1日 至2019年2月28日
売上高 (千円)	8,872,475	8,971,547	39,643,803
経常利益 (千円)	144,380	110,760	4,122,629
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(は損失) (千円)	102,245	127,403	2,036,832
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	84,232	143,516	2,103,764
純資産額 (千円)	22,152,634	23,347,730	24,340,461
総資産額 (千円)	32,545,523	33,783,009	34,775,333
1株当たり四半期(当期)純利益金額(は損失) (円)	6.02	7.50	119.93
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	65.0	65.9	66.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第45期第1四半期連結累計期間及び第46期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第45期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調であった一方、海外経済情勢の不確実性等により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、主力である写真事業において、競合他社との差別化強化を図り、お客様に選んでいただけるお店になるための取り組みを行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,971百万円（前年同期比1.1%の増加）、営業利益は103百万円（前年同期比27.9%の減少）、経常利益は110百万円（前年同期比23.3%の減少）、親会社株主に帰属する四半期純損失は127百万円（前年同期は102百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

（写真事業）

写真事業は、入園入学・卒園卒業撮影、並びに、お節句（桃の節句、端午の節句）撮影を推進するとともに、5月1日から「早撮り七五三キャンペーン」、5月9日から「七五三お出かけ着物レンタル予約」を開始いたしました。そのほか、更なる件数獲得に向け、「イースターキャンペーン」や映画「ダンボ」の公開に合わせた期間限定のディズニーキャンペーンを実施いたしました。

国内子ども写真館の出店状況は、移転7店舗を含み9店舗出店、退店3店舗を行い、ショッピングセンター内の区画移動・増床を含む改装を18店舗実施いたしました。

その結果、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、国内子ども写真館511店舗（直営店舗501店・フランチャイズ店舗10店）、韓国の子会社における子ども写真館2店舗を含め、513店舗となっております。

以上の結果、写真事業の売上高は8,910百万円（前年同期比0.7%の増加）、セグメント利益は111百万円（前年同期比の51.1%減少）となりました。

（衣装製造卸売事業）

衣装製造卸売事業は、前年に開設した京都府京丹後市の和装縫製工場において、当社向け衣装の生産を本格的に進めていくとともに、成人振袖レンタル事業の更なる売上規模拡大に向け、常設店舗での展示予約会、並びに、当社店舗等での期間限定展示予約会を実施し、受注件数の獲得に努めました。

以上の結果、衣装製造卸売事業の売上高は653百万円（前年同期比19.2%の増加）、セグメント利益は106百万円（前年同期比248.2%の増加）となりました。

(2) 財政状態の状況

資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ992百万円減少し33,783百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末と比べ2,316百万円減少の13,891百万円となりました。

固定資産は、投資その他の資産「その他」に含まれている投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末と比べ1,324百万円増加の19,891百万円となりました。

負債の状況

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ0百万円増加し10,435百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末と比べ172百万円減少の6,289百万円となりました。

固定負債は、固定負債「その他」に含まれる長期リース債務の増加等により、前連結会計年度末と比べ172百万円増加の4,145百万円となりました。

純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ992百万円減少し23,347百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び前連結会計年度の剰余金の処分（配当金支払い）などによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年7月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年3月1日～ 2019年5月31日	-	17,185,650	-	1,885,950	-	2,055,449

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 201,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,966,500	169,665	同上
単元未満株式	普通株式 17,750	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	-	-
総株主の議決権	-	169,665	-

【自己株式等】

2019年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	201,400	-	201,400	1.17
計	-	201,400	-	201,400	1.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年3月1日から2019年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,426,638	9,485,740
受取手形及び売掛金	758,476	953,435
たな卸資産	1,658,869	1,529,464
その他	1,396,405	1,951,838
貸倒引当金	31,855	28,535
流動資産合計	16,208,533	13,891,944
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,250,025	8,251,798
その他(純額)	4,371,613	4,559,450
有形固定資産合計	12,621,638	12,811,248
無形固定資産		
投資その他の資産	1,307,295	1,352,540
敷金及び保証金		
敷金及び保証金	3,408,898	3,423,702
その他	1,459,030	2,533,637
貸倒引当金	230,063	230,063
投資その他の資産合計	4,637,865	5,727,276
固定資産合計	18,566,800	19,891,065
資産合計	34,775,333	33,783,009
負債の部		
流動負債		
買掛金	226,260	267,744
短期借入金	-	1,050,000
未払法人税等	1,180,231	167,651
賞与引当金	129,858	74,862
その他	4,925,746	4,729,513
流動負債合計	6,462,096	6,289,771
固定負債		
退職給付に係る負債	1,046,810	1,064,246
資産除去債務	1,679,836	1,705,321
その他	1,246,126	1,375,939
固定負債合計	3,972,774	4,145,506
負債合計	10,434,871	10,435,278

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	19,505,786	18,529,174
自己株式	276,152	276,159
株主資本合計	23,171,033	22,194,414
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	8,996
為替換算調整勘定	100,548	77,223
その他の包括利益累計額合計	100,548	68,226
非支配株主持分	1,068,880	1,085,089
純資産合計	24,340,461	23,347,730
負債純資産合計	34,775,333	33,783,009

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
売上高	8,872,475	8,971,547
売上原価	6,661,246	6,826,439
売上総利益	2,211,228	2,145,108
販売費及び一般管理費	2,067,057	2,041,216
営業利益	144,171	103,891
営業外収益		
受取利息	536	552
受取家賃	4,499	5,599
雑収入	9,226	9,243
営業外収益合計	14,262	15,396
営業外費用		
支払利息	3,051	3,679
店舗解約損	1,703	4,129
為替差損	2,776	189
雑損失	6,521	529
営業外費用合計	14,053	8,528
経常利益	144,380	110,760
特別損失		
固定資産廃棄損	54,489	79,125
減損損失	107,001	110,502
特別損失合計	161,490	189,627
税金等調整前四半期純損失()	17,110	78,867
法人税、住民税及び事業税	140,850	106,226
法人税等調整額	73,473	73,899
法人税等合計	67,377	32,326
四半期純損失()	84,488	111,194
非支配株主に帰属する四半期純利益	17,757	16,209
親会社株主に帰属する四半期純損失()	102,245	127,403

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
四半期純損失()	84,488	111,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	8,996
為替換算調整勘定	255	23,325
その他の包括利益合計	255	32,321
四半期包括利益	84,232	143,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	101,989	159,725
非支配株主に係る四半期包括利益	17,757	16,209

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至2018年5月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年5月31日)

当社グループの写真事業では、主として第3四半期の撮影機会(七五三等)が多いため、通常、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ、著しく高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
減価償却費	739,632千円	808,514千円
のれんの償却額	2,412	199

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至 2018年5月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月29日 定時株主総会	普通株式	849,211	50	2018年2月28日	2018年5月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至 2019年5月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月28日 定時株主総会	普通株式	849,208	50	2019年2月28日	2019年5月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年3月1日 至2018年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,845,481	26,993	8,872,475	-	8,872,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	177	521,684	521,861	521,861	-
計	8,845,658	548,678	9,394,337	521,861	8,872,475
セグメント利益	228,669	30,700	259,369	115,198	144,171

(注)1. セグメント利益調整額 115,198千円には、固定資産の調整額等 64,807千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 50,390千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては107,001千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,904,875	66,672	8,971,547	-	8,971,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,463	587,314	592,778	592,778	-
計	8,910,339	653,987	9,564,326	592,778	8,971,547
セグメント利益	111,895	106,890	218,786	114,894	103,891

(注)1. セグメント利益調整額 114,894千円には、固定資産の調整額等 59,265千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 55,629千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては110,502千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
1株当たり四半期純損失金額	6円02銭	7円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	102,245	127,403
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失金額(千円)	102,245	127,403
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,984	16,984

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年7月9日

株式会社スタジオアリス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千崎 育利 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥村 孝司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年3月1日から2019年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年3月1日から2019年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の2019年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。